

## 柔道整復師に相応しい容姿・態度

○仲田 真悟、亀山 直也、原口 力也、佐藤 裕二（帝京平成大学ヒューマンケア学部柔道整復学科）

キーワード：身だしなみ (appearance)、言葉遣い (language)

【目的】栗原<sup>1)</sup>によると、医療従事者の身だしなみは患者との信頼関係をスムーズに構築するために重要であると報告されている。患者さんとの信頼関係を構築する上で、服装以外にも話し方、周囲の評判、施術者の肩書きや性別、年齢などが関連する可能性がある。このような要因はすぐに変えられるものではないが、話し方や服装・身だしなみは変えることが可能である。患者満足度や信頼関係への影響度などは調査されているが、身だしなみに関しては患者さんとの信頼関係構築に関しての研究はほとんどみられない。そこで本研究では柔道整復師を目指す大学生が身だしなみや言葉遣いに関してどのように考えているかを調査した。【対象と方法】柔道整復師を目指す大学生：合計 331 人を対象にした。(1～4年生) 調査方法は自記式アンケートとした。質問項目は①自分が患者としたときに最も適切な柔道整復師の白衣の種類を選んでください。1. ポロシャツ、2. スクラブ、3. ケーシー、4. ドクターコート。②医療従事者(柔道整復師)に相応しい髪色はどれか。1. 黒色、2. 茶色、3. 金髪、4. その他( )。③医療従事者としてふてきせつな髪型はどれか(複数回答可) 1. 坊主、2. 短髪、3. 長髪、4. ロン毛。④医療従事者(柔道整復師)が装着してもよいものはどれか。1. 時計のみ、2. ピアス、3. ネックレス、4. その他( )、5. すべてなし。⑤自分が患者としたときに最も適切な柔道整復師の白衣の色を選んでください。1. 白色、2. エンジ色、3. 青色、4. カーキ色。⑥医療従事者(柔道整復師)にゆるされる髭の範囲はどれか。1. 無精髭、2. 鼻の下の髭、3. あご髭、4. 鼻の下+あご髭、5. 髭なし。⑦医療従事者(柔道整復師)として言葉使いとして不適切なものはどれか。1. 標準語、2. 方言、3. ためぐち、4. はやくち、5. 敬語。⑧医療従事者(柔道整復師)として不適切なニオイはどれか(複数回答可)。1. 香水、2. タバコ、3. アルコール、4. 不潔な体臭、5. すべて。①②④⑤は理由を記載してもらった。【結果】①白衣の種類については、ケーシーが 57.3%、スクラブが 35.8%、ポロシャツ 5.5%、ドクターコートが 1.5%であった。白衣の選ぶ理由としてはケーシーでは「見慣れている」、スクラブでは「動きやすそうである」、ドクターコートは「先生がきているから」という意見が多かった。②髪色では黒が 81.9%、その他 9.0%、茶髪 8.1%、金髪 0.9%であった。髪色でその他については「実力があればどんな色でもかまわない」という意見があった。③髪型についてはロン毛が 51.3%、長髪が 23.6%、短髪が 13.9%、坊主が 11.3%であった。④装着品については時計のみが 44.4%、すべてなしが 38.9%、ネックレスが 8.8%、ピアスが 5.6%、その他 2.3%であった。その他では「女性ならピアスも装着可」という意見があっ

た。⑤白色が 46.1%、青色が 40.2%、エンジ色が 10.5%、カーキ色が 3.1%であった。白衣の色の選択理由で白色は「白衣のイメージである」「清潔感」、青色は「爽やか」「落ち着く」「汚れが目立ちにくそう」、エンジ色は「先生が着ていて格好いいと思った」などの意見が多かった。⑥髭については髭なしが 60.5%、あご髭が 15.1%、鼻下とあご髭が 13.0%、鼻下の髭が 6.0%、無精髭 5.4%であった。⑦不適切な言葉遣いではためぐちが 36.5%、はやくちが 35.8%、敬語が 11.9%、標準語が 9.6%、方言が 6.1%であった。⑧不適切なニオイについては不潔な体臭が 28.8%、アルコールが 27.9%、タバコが 28.8%、香水が 14.5%であった。不適切なニオイに関しては「すべて」という項目はすべての項目に該当するため、それぞれの項目にプラスして結果としている。【考察】白衣の種類は、教員や学生が着用して普段から見慣れているものを選ぶ者が多かった。栗原<sup>1)</sup>の報告ではでは見慣れないスクラブに対する評価が高くないとの報告があるが、スクラブを着用している教員がおり見慣れている可能性がある。色では清潔感や爽やかさの色として白や青を選ぶ学生が多く、エンジ色は教員が着用しており見慣れている為選ぶ学生がいたと推察する。髪色は多くは黒を選んだが、2割程度は黒以外を選び、髪色に対する柔軟性がうかがえる。医療者になったときに髪色の自由が欲しいという願望が含まれている可能性がある。長さでは長いことに対して良いイメージを持っていないようである。装着品は全て無しが約 4割程度であるが、必ずしもアクセサリを許容する意見が多いわけではないと思われる。時計は実的なものとして許容する学生が多かったのではないかと推察する。髭は約 6割の人がなしとしているが、4割程度は髭があることを認めている。女性は髭なしを選ぶことが多く、男女間で髭の認識や許容が違うことがわかった。男性は自分に置き換え、女性は他者からの目線での意見であることで差があると推察する。ニオイは香水のニオイを他のニオイと比べ不適切と思う人が半数と少なく、香水を嫌なにおいと捉えていない可能性がある。ニオイは人により感じ方が違ったり<sup>2)</sup>、化学物質過敏症<sup>3)</sup>と言った人もおり、見えないものであるが気をつける必要がある。【結論】白衣は見慣れているものを選ぶ学生が多かった。他の項目は比較的良識的な回答が多くみられたが、一部の学生においては柔軟な考えを持っている者がいた。【文献】1) 栗原宏:医師の身だしなみに関する研究、1、34  
2) 井尻裕也:香りを経営戦略として導入する利点と課題、16  
3) 寺田良一:化学物質過敏症患者の「二重の不可視性」と環境的「社会的排除」、62